

パワーとスピード



堀場 雅夫

* 株式会社 堀場製作所 取締役会長

ここ数年私はできる限りベンチャービジネスの経営者と会う機会を作っている。これはもちろん私自身の趣味の一つでもあるが、今、私がお引き受けしている JANBO (Japan Association of New Business Incubation Organizations) の運営にも極めて大切な情報源と思っている。

ご承知のごとく、ベンチャーの経営者は千差万別の価値観と哲学を持っているので、共通点を見出すことは極めて困難ではあるが、2つのキーワードを発見した。それはパワーとスピードである。

私も57年間の企業人生を通じて得た事は、ベンチャー企業や中小企業が大企業と互角に戦うには大企業の手薄な分野に徹底的にパワーを集中することと、誰に対しても平等である時間で争うことを見出した。

一般的にパワーとスピードは比例関係と思われている。内燃機関で車を駆動する場合はもちろんパワーの大きい方が速いが、限界は300km/hr程度である。しかし、プロペラ機になると同一のパワーで倍近くのスปีドは出せる。ただ、プロペラでは音速を超えることは絶対不可能であるが、ジェットエンジンにすれば音速以上のスピードが出る。でも引力圏外にできることは絶対不可能である。だが、同じパワーのロケット推進であれば可能となる。この様に同じパワーでも推進方式によりスピードが異なることは明瞭である。

企業経営の極意は市場にあわせたスピードを得るために駆動方式とパワーを最適化することであり、ただのパワーの増大を望むべきものではない。

21世紀になると企業パワーの定義が大きく変わりつつある。20世紀のパワーとは金・人材・ブランドであった。しかし、今日のパワーとはその経営者とその企業の魅力であり、いかに共感・共鳴・感激を与えるかである。

このことは今や企業のみならず、国家・都市は勿論、あらゆる団体にも新しいパワーが求められているのではなかろうか。